

世界レベルの活躍を見せる俊英、岡本侑也が奏でる「哀愁」 神童から日本屈指のピアニストへと進化を遂げた牛田智大の「情熱」 古都プラハの名門と贈る、怒涛の名曲ニューイヤー・コンサート！

日本が誇る若きビッグ・スター2名が、古都プラハの名門プラハ交響楽団と贈る贅沢なニューイヤー・コンサートが実現！

与えられる課題の困難さから「世界でもっともハード」と呼ばれるエリザベート王妃国際音楽コンクールで見事第2位入賞を果たして以来、溢れる情感と卓越した技術を高い次元で融合した器の大きい音楽で世界中を魅了するチェリストの岡本侑也。近年はあのクリスチャン・ツィメルマンとも世界各地で共演を重ねるなど、ますます注目される岡本がドヴォルザークの故郷チェコが誇る名門と満を持して奏でるチェロ協奏曲…これだけで必聴ものであることは言うまでもない。

しかしこの公演は、それだけでは終わらない。神童として社会現象を巻き起こし日本の音楽ファンからの期待を少年時代から一身に浴びながらもブレることなく研鑽を積み、若手の登竜門・浜松国際ピアノコンクールで見事第2位入賞。その磨き抜かれた美しい音色と、どこまでも誠実な人柄が表れたピアニズムで、今や日本屈指のピアニストとして聴き手を魅了する牛田智大の、情熱渦巻くラフマニノフの第2番協奏曲も聴けるのだから、まさに贅沢三昧である。

この2人が同時に登場するというだけでも垂涎ものだが古都プラハの雄・プラハ交響楽団と、その首席指揮者トマーシュ・ブラウネルとの共演での実現という豪華さには驚愕の一言である。2024年の幕明けを飾るにふさわしいスペシャル・コンサート、今から待ちきれない。



トマーシュ・ブラウネル (指揮)
Tomáš Brauner, conductor

チェコの指揮者トマーシュ・ブラウネルは、チェコ共和国最高峰のオーケストラであるプラハ交響楽団の首席指揮者を務めている。

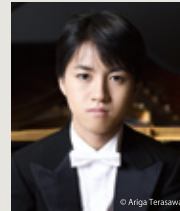
2014-18年には、チェコ放送響の首席客演指揮者、2018-21年には、ボスラフ・マルティヌー・フィルの首席指揮者の地位にあった。オーケストラとオペラの指揮者として精力的に活動しておりチェコ・フィル、ミュンヘン響、プラハ放響をはじめとするヨーロッパの主要な交響楽団と共演している。オペラ指揮者としてのキャリアをプルゼニの J.K. ティル劇場にて開始し、モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》、プッチーニ《トゥーランドット》等を指揮。プラハ国立歌劇場にはヴェルディ《オテッロ》でデビューした後、プッチーニ《ラ・ボエーム》、モーツァルト《魔笛》などを指揮した。また、リヒャルト・シュトラウス音楽祭、プラハの春国際音楽祭など重要な音楽祭にも客演している。プラハ国立音楽院にてオーボエと指揮を学んだ。プラハ芸術アカデミーにてラドミル・エリシュカに師事し、またウィーン国立音楽大学にてウロシュ・ラヨビチのもとさらなる研鑽を積んだ。2017年、優れた芸術的貢献に対しプルゼニ市の芸術賞を受賞している。



岡本 侑也 (チェロ)
Yuya Okamoto, cello

2023年4月にウィーン、パリ、ルツェルンなど欧州7都市でピアニストのクリスチャン・ツィメルマンとブラームスのピアノ四重奏曲を三度目の共演、エレガントなフレージングと輝きを放つチェリストと最大級の賛辞を贈られた世界が注目する1994年生れのチェリスト。

2017年エリザベート王妃国際音楽コンクール第2位、2011年第80回日本音楽コンクール第1位、第25回新日鉄住金音楽賞フレッシュアーティスト賞、第16回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第28回出光音楽賞、第20回ホテルオークラ音楽賞受賞。H=J.ゼーフルート、山崎伸子、W=S.ヤン、J.シュテッケル、A.チュマチェンコ、H.シュリヒティヒの各氏に師事。ミュンヘン音楽・演劇大学を首席で卒業。同大学院ソ科も首席で修了し、現在も同院で研鑽を積みながら第一線で演奏活動を展開している。CD《岡本侑也 IN CONCERT》をオクタヴィアレコードから発売。



牛田智大 (ピアノ)
Tomoharu Ushida, piano

2018年第10回浜松国際ピアノコンクールにて第2位、併せてワルシャワ市長賞、聴衆賞を受賞。2019年第29回出光音楽賞受賞。

1999年福島県いわき市生まれ。2012年、クラシックの日本人ピアニストとして最年少12歳でユニバーサルミュージックよりCDデビュー。2015年「愛の喜び」、2016年「展覧会の絵」、2019年「ショパン：バラード第1番、24の前奏曲」、2022年「ショパン・リサイタル 2022」は続けてレコード芸術特選盤に選ばれている。シュテファン・ヴラダー指揮ウィーン室内管(2014年)、ミハイル・プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管(2015年/2018年)、小林研一郎指揮ハンガリー国立フィル(2016年)、ヤツェク・カズブシク指揮ワルシャワ国立フィル(2018年)各日本公演のソリストを務めたほか、全国各地の演奏会で活躍。その音楽性を高く評価され、2019年5月にはプレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管モスクワ公演、8月にワルシャワ、10月にはブリュッセルでのリサイタルに招かれた。2022年3月、デビュー10周年を迎えた。

プラハ交響楽団 Prague Symphony Orchestra

プラハ交響楽団は1934年の秋、指揮者のルドルフ・ベカーレクによって創立された。チェコスロヴァキア放送の生放送に定期的に出演することで名を広め、経済的に存立できる団体に成長。主たる推進者として創立以来活躍したのはヴァーツラフ・スメターチェクであり、彼は、短期間のうちに同楽団を大規模な交響楽団とし、1942年には首席指揮者に就任、その後30年間にわたって同楽団を牽引し、高い演奏水準を誇る国際的な名声を得るオーケストラへと発展させた。1952年、プラハ市は同楽団に市を代表するオーケストラという地位を与え新しい名称は「首都プラハの交響楽団 FOK」となった。1957年にはポーランド、イタリア、オーストリア、ドイツへの初の国外ツアーを行うことによって国際舞台に躍り出た。その後イルジー・ビエロフラーヴェク、ベトル・アルトリヒテル、セルジュ・ボド、イルジー・コウト、ピエタリ・インキネンなどが首席指揮者を務めた。2020年9月からはトマーシュ・ブラウネルが首席指揮者となっている。プラハ交響楽団はその歴史の中で、多くの世界的名指揮者を客演指揮者として迎えただけでなく、多彩なソリストたちとも共演。また、ヨーロッパのほぼ全ての国で演奏したのに加え、日本と米国では頻繁に演奏しており、その他にも南米、台湾、韓国、トルコ、イスラエルなどの国々を訪れている。

